

I 水 稲

1 育苗管理について

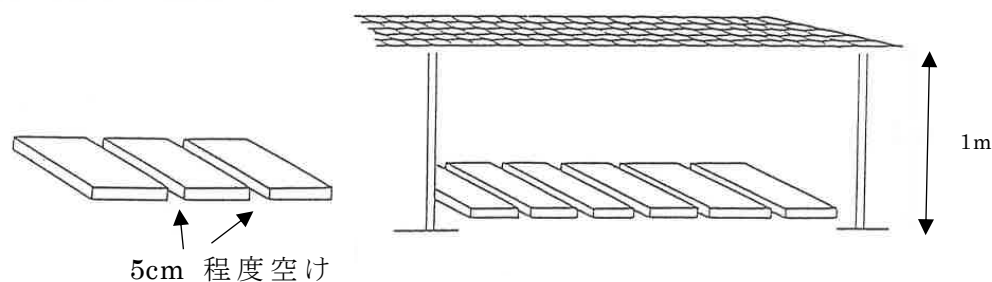
育苗日数の延長が予想される場合、苗の徒長・老化を防止するため、次の対策を行う。

(1) 苗箱へのかん水は、朝、十分にかん水し、日中に表面の土が乾いた部分のみ（特に苗箱の回りが乾きやすいので注意）かん水するなど極力かん水量を控える。

なお、午後3時過ぎはかん水は行わないようにする。

(2) 昼は換気を徹底し、夜間も外気温で管理する。ただし、強風時に苗に直接風が当たると乾きやすいので注意する。

(3) 寒冷紗等で遮光し、風通しを良くする。また、苗箱を5cm程度ずらし、箱間の通気を良くする。



(4) 播種後25日を過ぎると（葉齢2.5葉程度）肥料切れにより苗が黄化するので、窒素成分で箱当たり0.5～1.0gを追肥する。

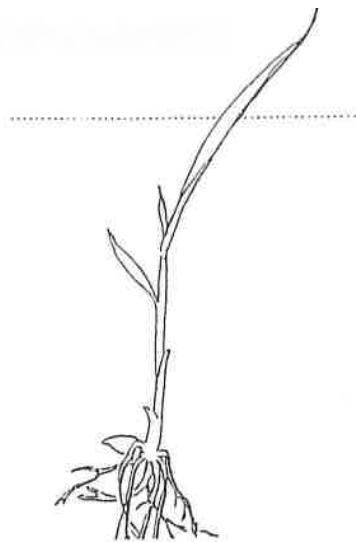
(5) 育苗日数が長くなると、ムレ苗が出やすくなるので、最新の防除指針に従い薬剤散布により予防する。

(6) 苗が軟弱徒長（苗丈23cm以上）し、移植作業に支障を来す場合、以下に注意して剪葉により苗の老化を防ぐ。

① カット部分は、（徒長苗の場合第2葉、健苗の場合第3葉）葉身の半分を剪定用はさみ等でカットする（苗丈15cm程度とする）。

② いもち病が発生しやすくなるので、防除基準に従い薬剤散布を行う。

※ 苗が多少伸びても、移植作業に支障を来さず、がっちりした苗質であれば剪葉は行わない



せん葉する場合の位置

本葉第2葉の中央部又は、本葉第3葉の中央部

2 本田の節水対策

本田の田植え準備は、次の対策を行う。

- (1) 代かき前に、ほ場内に通水用の溝を作り（トラクターのタイヤ跡も効果有り）、短時間に水がほ場全体に回るように心がける。
- (2) 畦畔等からの漏水防止をしっかりと行う。
- (3) 代かきのため一斉に取水すると、どの水田も代かき出来なくなるので、地域ぐるみで取水を調整し、計画的に水利用（順番に水を入れる番水方式）を行う。
- (4) 荒代・植代の2回実施する余裕が無く1回仕上げをする場合、水持ちを良くするため、代かき回数を多くするとともに丁寧に行う。ハローは高速回転にしない。
- (5) 水のかけ流しは無駄遣いになるので絶対にしない。
- (6) 田植え後はほ場畦畔を点検し、モグラ穴等による漏水防止を徹底する。
- (7) 雑草防除は、水が確保できてから防除指針に基づき除草剤散布を行う。雑草の発生が多くなることが予想される場合は、初中期＋後期剤等の体系防除を行う。

II 野菜

1 野菜全般

- (1) 定植や播種を遅らせる。
定植を遅らせる場合は育苗中の苗の間隔を広げ、肥料切れや病虫害の発生に注意する。
- (2) 定植した苗は、午前中に株元へ十分にかん水を行う。
十分なかん水ができない場合は株元を強く鎮圧する。
- (3) 播種（植付け）した場合は十分にかん水を行う。
かん水ができない場合は覆土の上から強く鎮圧する。

2 いちご（親株ほ）

- (1) 土壌の乾き具合を見ながら、こまめなかん水をこころがける。
- (2) 乾燥が続くとアブラムシ、ハダニ類が発生しやすくなるので、その発生動向に十分注意し、適期防除に努める。

Ⅲ 果 樹

1 果樹全般

新しく植えつけた苗木など根域が小さい樹は乾燥に非常に弱いので、4～5日おきに十分かん水を行う。

Ⅳ 花 き

1 き く

(1) 露地きくの定植は十分かん水し、根と土の密着を図る。

(2) 9月・10月咲きの作型は5月中～下旬が定植の限界であるので、降雨を待ってから定植する。

2 りんどう

(1) 開花2～3年目の株は株元が上がっているため、土寄せを行い、乾燥の被害を防止する。

(2) 定植苗のほ場は、株元にわら、もみがら等を敷く。

Ⅴ 飼料作物

1 イタリアンライグラス

十分な草丈が得られなくても、適期収穫を行う。

2 飼料用とうもろこし

(1) 十分な土壌水分が得られてから播種を行う。

(2) 播種を行う場合、均平に努めるとともに、播種後の鎮圧を十分行う。また、除草剤散布を行う場合は、希釈する水量を増加させる。